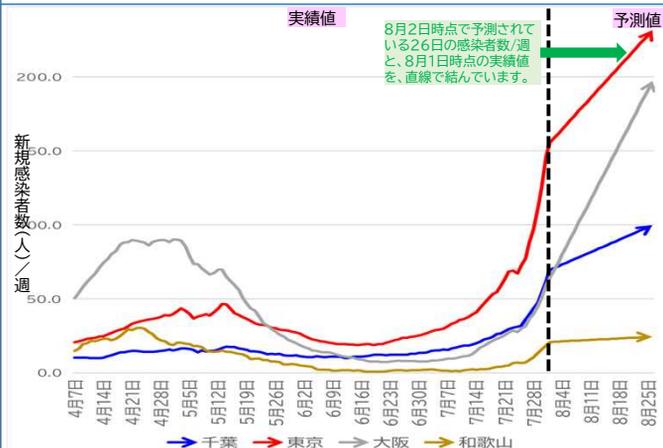


急速な感染拡大の中で迎える 夏期休業に向けた留意点

東京都は7月12日から、千葉県でも8月2日から緊急事態宣言の対象地域になります。7月下旬の時点で東京・千葉の人口10万人あたりの感染者数/週は、既に過去最多となりました。グーグル社の人工知能を用いた予測でも、8月下旬にかけては東京でも千葉でも大幅増が見込まれています(左図)。流行が広がるデルタ株は若年層への感染が多く、ワクチン接種を終えた場合でも、やはり非常にリスクが高い状況といえます。



こうした状況を踏まえ、本学では「感染拡大警報」を再発出し夏期休業中の留意点を改めて周知することにいたしました。

【夏期休業中の7箇条】

1. 家庭内を含む日常生活での感染症対策を徹底してください(手指消毒、手洗いマスク着用、フィジカルディスタンス、換気等)。
2. 対面による会食は同居している家族等の最小限に限ってください。
3. 自治体が短縮要請した営業時間を超えて営業したり、酒類提供停止要請中に酒類を提供する飲食店を利用しないでください。
4. 自治体の要請に協力しない飲食店でのアルバイトは避けてください。
5. ワクチンを接種した後も、「飲み会」や飲食を伴う行事、同居者以外の人との旅行は避けてください。
6. 帰省等で止むを得ず都県を跨ぐ移動をする場合、前後でPCR検査を受けるよう努めてください。
7. 不特定多数の人が参加するイベントへの参加は自粛し、オンラインピック・パラリンピックも家族等と自宅で見守ってください。

まだワクチン接種を受けていない学生については夏期休業中に接種することをお勧めします。ワクチンに対する大学の方針やよくある疑問点を説明した動画を配信していますので、YouTubeでご覧ください。

動画「ワクチン接種のお勧め」



学生が語るハイブリッド授業

第1回 日赤和歌山医療センターキャンパス

これまで「遠隔授業だより」では大学からお伝えしたいことや教員の取り組みを中心にお伝えしてきました。遠隔授業がはじまって一年以上経過して、学生も対面授業と遠隔授業のハイブリッド授業に慣れてきました。そこで本号からは、学生が感じるハイブリッド授業の利点や改善に向けた要望をお伝えしていきます。第1回は、昨年開設された「日赤和歌山医療センターキャンパス」が舞台です。

「実習もハイブリッドになったようですが、よかったと思うことを教えてください。」

学生A グループワークが増えたことがよかったと思います。どうしても実習は忙しい環境になります。しかし、病院に行くときとオンラインで学ぶときがどちらもあると、チームで調べながら記録などを作ることが可能になります。対象者の全体像を学ぶ上では、とてもいい方法だと思います。

「逆に遠隔授業の課題だと思ってることはありますか。」

学生B 自宅でオンライン学習をすると、どうしても集中力が切れてきます。先生に相談できたり、学生間で解決できるという意味では、やはり対面授業は大事だと思います。週に何回かは登校できるというと思います。

「どのよう使い分けていくのがいい感じですか。」

学生B 感染者が多い時期には、公共の交通機関を使ってくるのは不安もあります。そういう時期に遠隔授業を受けられるのは、安心できます。

「感染拡大が進んでいる時期には、実習が学内+オンラインになってしまってもあります。こうした実習はどう感じますか。」

学生C 教育用電子カルテで患者情報を収集したり、手術後の患者さんの状態をシミュレーションで学びました。患者役の学生が点滴や硬膜外カテーテルの模型をつけ、その状態で体位変換や寝衣交換を体験でき、楽しかったです。

「実際に病院に行った場合と比べて、学修成果があったと考えますか。」

